

# 佐那河内村の板碑

—— 考古班 (徳島考古学研究グループ) ——

岡山真知子\*<sup>1</sup> 三宅 良明\*<sup>2</sup>

## 1. はじめに

佐那河内村の板碑についての研究は、町村史に散見する程度である。佐那河内村内の板碑は、名東郡史<sup>1)</sup>に68基、佐那河内村史<sup>2)</sup>に17基の報告があり、合計81基の板碑が存在していたと考えられる。最近の道路改修工事や墓地の改修工事などによりかなりの板碑の存在が知られなくなった。また、工事に伴って移転したり、別の場所に移されたりしている。例えば、長願寺には6基の板碑が知られていたが、現在は1基しか見あたらない。観音庵は31基であったが、現在は32基ある。安喜古墳の中にも裏山の墓地から移転している。

村文化財保護委員会をはじめ地域の方々の板碑への関心度が低く、所在確認調査はかなり難航した。結局、今回の調査では46基を確認したにとどまる。しかし、佐那河内村文化財にも指定されている地蔵画像板碑は圧巻であった。村教育委員会のお取りはからいで実測・写真撮影をおこなったが、保存状況も良好で、図像がすばらしいできであった。今回は、この板碑を中心に7基の板碑の実測を行った。

## 2. 佐那河内村における板碑の調査

### 1) 調査の経過

期 日 2001年7月25日(水)、28日(土)

29日(日)、12月1日(土)

調査員 三宅良明、下田順一、中川尚

岡山真知子

調査協力 安喜哲夫、佐那河内村教育委員会

内 容 佐那河内村内の板碑の所在確認と、8基の板碑の実測調査を実施した。

### 2) 板碑の分布

今回の調査で確認できたのは佐那河内村文化財に指定されている仁井田神社地蔵画像板碑をはじめ根郷観音庵22基、安喜家墓地11基、仁井田神社9基をはじめ46基である。石材はすべて結晶片岩である。なお、所在地については図1、内容については表1に示した。

分布をみると、大半が園瀬川沿いの佐那河内-神山線沿いである。特に、仁井田・府能地区については神山町鬼籠野地区と隣接しており、神山町との関連も考えられる。

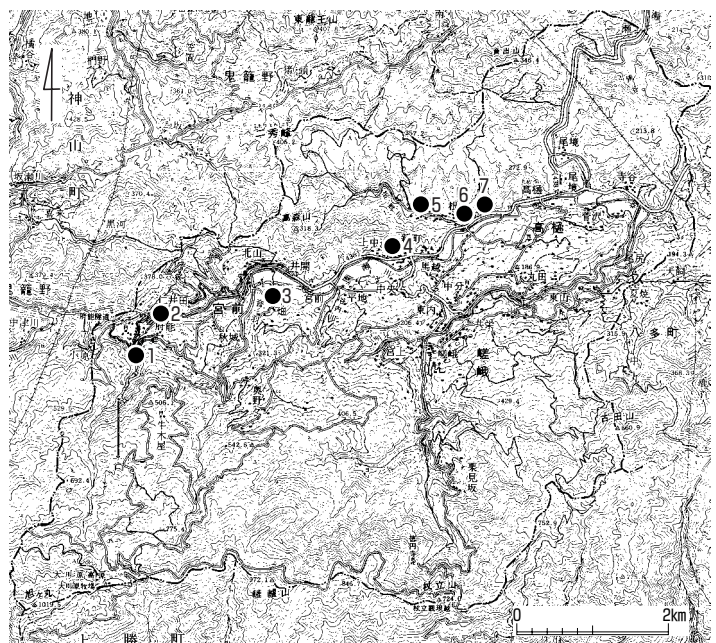


図1 佐那河内村における板碑の所在  
(『徳島県名東郡佐那河内村全図』を基図とする。番号は表1に一致する。)

\*1 徳島県埋蔵文化財センター研究員

\*2 徳島市教育委員会社会教育課

表1 佐那河内村の板碑一覧

(法量の単位はcm)

No	所在地	長さ	幅	厚さ	形	二線	枠線	標識	銘文	石材	残存	文献
1-1	府能	75.0	22.5	4.0	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	完形	佐那河内村史
1-2	府能	56.5	36.0	5.5							下半部	
2-1	仁井田 仁井田神社	113.4	27.0	5.7	山形	有	有	地藏画像	為逆修善根尼法阿廻 向也元徳三年八月廿 五日敬白	結晶片岩	頂部を一部 欠く	名東郡史
2-2	仁井田 仁井田神社	77.6	23.4	6.3	山形	有	有	五大種子	永徳元年	結晶片岩	ほぼ完形	名東郡史
2-3	仁井田 仁井田神社	49.1		2.0	弧状	有		五大種子+五輪 塔線刻	寛正五年	結晶片岩	縦に半割、 下半角を欠く	名東郡史
2-4	仁井田 仁井田神社	41.0	22.0	3.5	山形	有	有	五大種子		結晶片岩	完形	名東郡史
2-5	仁井田 仁井田神社	68.0	17.0	3.0						結晶片岩		名東郡史
2-6	仁井田 仁井田神社	42.0	14.0	2.5						結晶片岩		名東郡史
2-7	仁井田 仁井田神社	60.0	28.0	6.0						結晶片岩		名東郡史
2-8	仁井田 仁井田神社	70.0	27.5	3.5				五大種子		結晶片岩		名東郡史
2-9	仁井田 仁井田神社	81.5	24.0	4.5					あり	結晶片岩		名東郡史
3-1	上佐那河内長願寺境内	97.0	27.0	4.0	山形	有	有	阿弥陀三尊種子	為比丘尼□□正覚也 貞治二年二月廿日敬 白	結晶片岩	完形	佐那河内村史
4-1	上佐那河内上中辺新居貞 二現在墓地に再葬	77.0	25.0	6.5	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	完形	名東郡史
5-1	根郷観音庵	30.5	18.5	2.8	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	上半部	名東郡史
5-2	根郷観音庵	30.5	20.5	2.5	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	上半部	名東郡史
5-3	根郷観音庵	35.5	19.5	3.2	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	頂部欠く	名東郡史
5-4	根郷観音庵	42.5	21.0	2.4			有			結晶片岩	下半部	名東郡史
5-5	根郷観音庵	37.0	19.0	4.0			有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	下半部	名東郡史
5-6	根郷観音庵	66.0	22.0	5.5	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	完形	名東郡史
5-7	根郷観音庵	20.0	11.5	2.0	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	頂部のみ	名東郡史
5-8	根郷観音庵	30.5	20.5	3.5	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	上半部	名東郡史
5-9	根郷観音庵	37.5	18.5	2.5	山形		有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	下半部欠く	名東郡史
5-10	根郷観音庵	100.0	37.0	4.0	山形	有	有	五大種子		結晶片岩	完形	名東郡史
5-11	根郷観音庵	36.0	19.0	3.0	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	下半部欠く	名東郡史
5-12	根郷観音庵	78.5	24.5	6.0	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	完形	名東郡史
5-13	根郷観音庵	64.0	27.5	4.0	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	完形	名東郡史
5-14	根郷観音庵	70.5	20.0	3.5	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	完形	名東郡史
5-15	根郷観音庵	65.0	22.5	4.5	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	頂部欠く	名東郡史
5-16	根郷観音庵	40.0	21.0	3.5	山形					結晶片岩	頂部欠く	名東郡史
5-17	根郷観音庵	70.0	24.0	5.0	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	完形	名東郡史
5-18	根郷観音庵	40.0	20.0	4.5	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	上半部	名東郡史
5-19	根郷観音庵	24.0	21.5	2.5			有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	中央部	名東郡史
5-20	根郷観音庵	63.5	22.0	3.0	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	完形	名東郡史
5-21	根郷観音庵	45.0	25.5	4.5	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	下半部欠く	名東郡史
5-22	根郷観音庵	61.5	35.0	4.0						結晶片岩		名東郡史
6-1	根郷安喜宅安喜古墳内	30.8	21.4	3.0	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	上半部	
6-2	根郷安喜宅安喜古墳内	32.8	21.5	3.0	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	上半部	
6-3	根郷安喜宅安喜古墳内	68.5	19.7	2.8	弧状	不明	不明	阿弥陀三尊種子		結晶片岩	ほぼ完形	
7-1	根郷安芸宅裏山林中墓地	47.0	20.0	3.0						結晶片岩		佐那河内村史
7-2	根郷安芸宅裏山林中墓地	48.5	21.5	3.5			有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩		佐那河内村史
7-3	根郷安芸宅裏山林中墓地	50.0	21.0	6.0						結晶片岩		佐那河内村史
7-4	根郷安芸宅裏山林中墓地	31.5	30.0	3.0	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩		佐那河内村史
7-5	根郷安芸宅裏山林中墓地	65.5	21.0	4.0	山形	有	有	阿弥陀三尊種子		結晶片岩		佐那河内村史
7-6	根郷安芸宅裏山林中墓地	57.0	21.0	4.0						結晶片岩		佐那河内村史
7-7	根郷安芸宅裏山林中墓地	70.5	22.0	4.0			有			結晶片岩		佐那河内村史
7-8	根郷安芸宅裏山林中墓地	65.0	17.0	6.0						結晶片岩	縦割れ	佐那河内村史

### 3) 各板碑

今回、実測調査を実施した板碑を中心に佐那河内村内の板碑について述べる。

#### (1) 佐那河内村文化財 地蔵画像板碑 (図2-1)

元来は、祠に安置されているが、今回は教育委員会のご配慮により実測・拓本調査が実施できた。山形の頭部に二線を引き、枠線で囲まれる。長さ113.4cm・幅27.0cm・厚さ5.7cmを測る大形の板碑である。枠線の中に、右手に錫杖、左手に宝珠をもった地蔵立像が蓮華座の上に描かれ、二重の円輪と9条の放射状の後光がつけられている。下部には、左右に写実的な徳利形の花瓶<sup>3)</sup>1対と中央に銘文が刻まれている。花瓶の中には一茎の花<sup>4)</sup>と三対の葉が写実的に描かれている。銘文は「為逆修善根尼法阿廻向也 元徳三年八月廿五日敬白」である。元徳三(1331)年八月廿五日、法阿という尼が逆修のために建立した意である。元徳三(1331)年は、鎌倉時代末期であるが、板碑としては早い段階の板碑である。

#### (2) 仁井田神社の板碑 (図2-2~4)

(1)で紹介した地蔵画像板碑を含めて9基の板碑が仁井田神社で散見できる。地蔵画像板碑は祠の中に安置されている。2の五大種子板碑は、上の段の祠数基と並んで立てられている。3・4の五大種子板碑は、墓の後に並べられていた。なんとか、1と同じように祠の中かどこかで保管していただきたい。

2の五大種子板碑は、山形の頭部に二線を引き、枠線で囲まれる。長さ41.0cm・幅22.0cm・厚さ3.5cmを測る小形の板碑である。枠線の中には、葉研彫りの五大種子が彫られるが、銘文は見られない。

3の五大種子板碑は、山形の頭部に二線を引き、枠線で囲まれる。長さ77.6cm・幅23.4cm・厚さ6.3cmを測る大形の板碑である。枠線の中には、中央に葉研彫りの五大種子と右に永徳元年の紀年銘が確認できた。永徳元年(1381)は、板碑の最盛期段階の板碑である。

4の五大種子板碑は、山形の頭部に二線を引き、枠線で囲まれる。長さ49.1cm・幅15cm・厚さ2.0cmを測る小形の板碑である。縦に割れており、約半分の遺存である。復原すると幅30cm程度であろう。枠線の中には、中央に五輪塔が線刻され、その中に、五

大種子を彫刻した板碑である。また、左端に寛正五年の紀年銘が認められる。寛正五年(1464)は、室町時代後期であり、板碑の減少期にあたる。

#### (3) 安喜古墳の板碑 (図3-5~7)

安喜古墳の中に安置されていた板碑である。古墳周辺に立てられていたものが納められたのであろう。3基存在し、いずれも結晶片岩製の阿弥陀三尊種子板碑であり、銘文はみられない。

5の阿弥陀三尊種子板碑は、山形の頭部に二線を引き、枠線で囲まれる。長さ30.8cm・幅21.4cm・厚さ3.0cmを測る板碑である。中央で半分に折れている。枠線の中には、阿弥陀三尊五大種子が彫られている。

6の阿弥陀三尊種子板碑は、山形の頭部に二線を引き、枠線で囲まれる。長さ32.8cm・幅21.5cm・厚さ3.0cmを測る板碑である。中央で半分に折れている。枠線の中には、葉研彫りの阿弥陀三尊五大種子が彫られている。

7の阿弥陀三尊種子板碑は、頭部が弧状を呈する板碑で、表面の摩滅が激しく、線刻や枠線については不明である。わずかに、阿弥陀三尊種子がみえる程度である。長さ68.5cm・幅19.7cm・厚さ2.8cmを測る板碑であり、ほぼ完形である。

5・6は、半分程度の遺存であるが、ほぼ同じ大きさの板碑である。7と比較して、7よりは少し大きい板碑であった可能性が高い。

#### (4) 長願寺の板碑 (図3-8)

長願寺境内の山門を入ってすぐ正面の台の上に立てられている阿弥陀三尊種子板碑である。山形の頭部に二線を引き、枠線で囲まれる。長さ97.0cm・幅27.0cm・厚さ4.0cmを測る大形の板碑である。枠線の中には、中央に葉研彫りの阿弥陀三尊種子と左に銘文が彫られている。銘文は「為比丘尼□□正覚也 貞治二年二月廿日敬白」とある。比丘尼□□正覚が、貞治二年二月廿日に建立したものである。貞治二年(1363)は、板碑の最盛期段階の板碑である。『佐那河内村史』などには7基あったとの記述があるが、現在は1基のみである。

#### (5) 観音庵の板碑

根郷観音庵には現在22基の板碑が納められている。『名東郡史』には21基の存在が書かれているが、おそらく近隣の相合橋などに存在していた板碑もこ

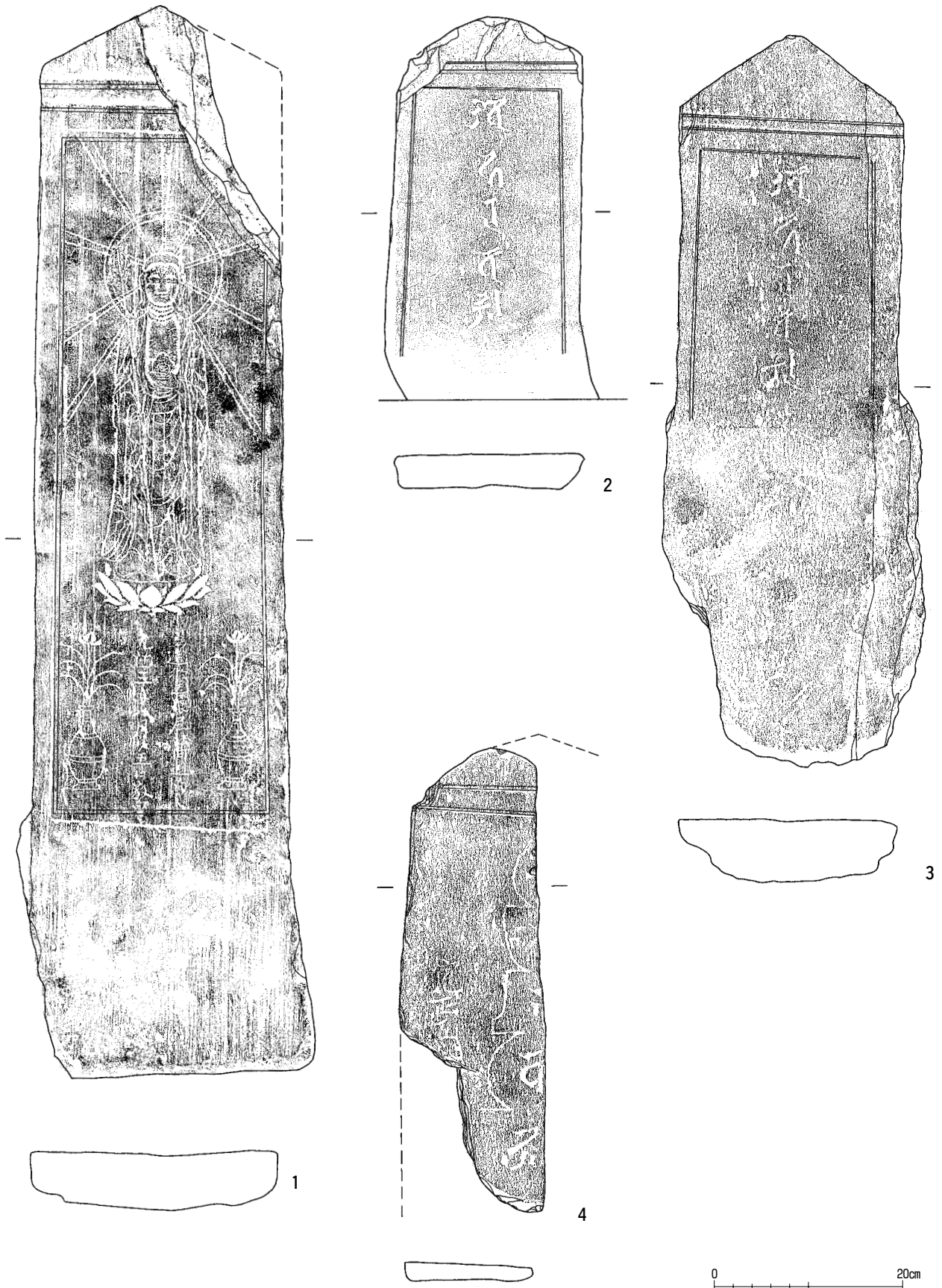


図2 仁井田神社の板碑実測図 (1:6)



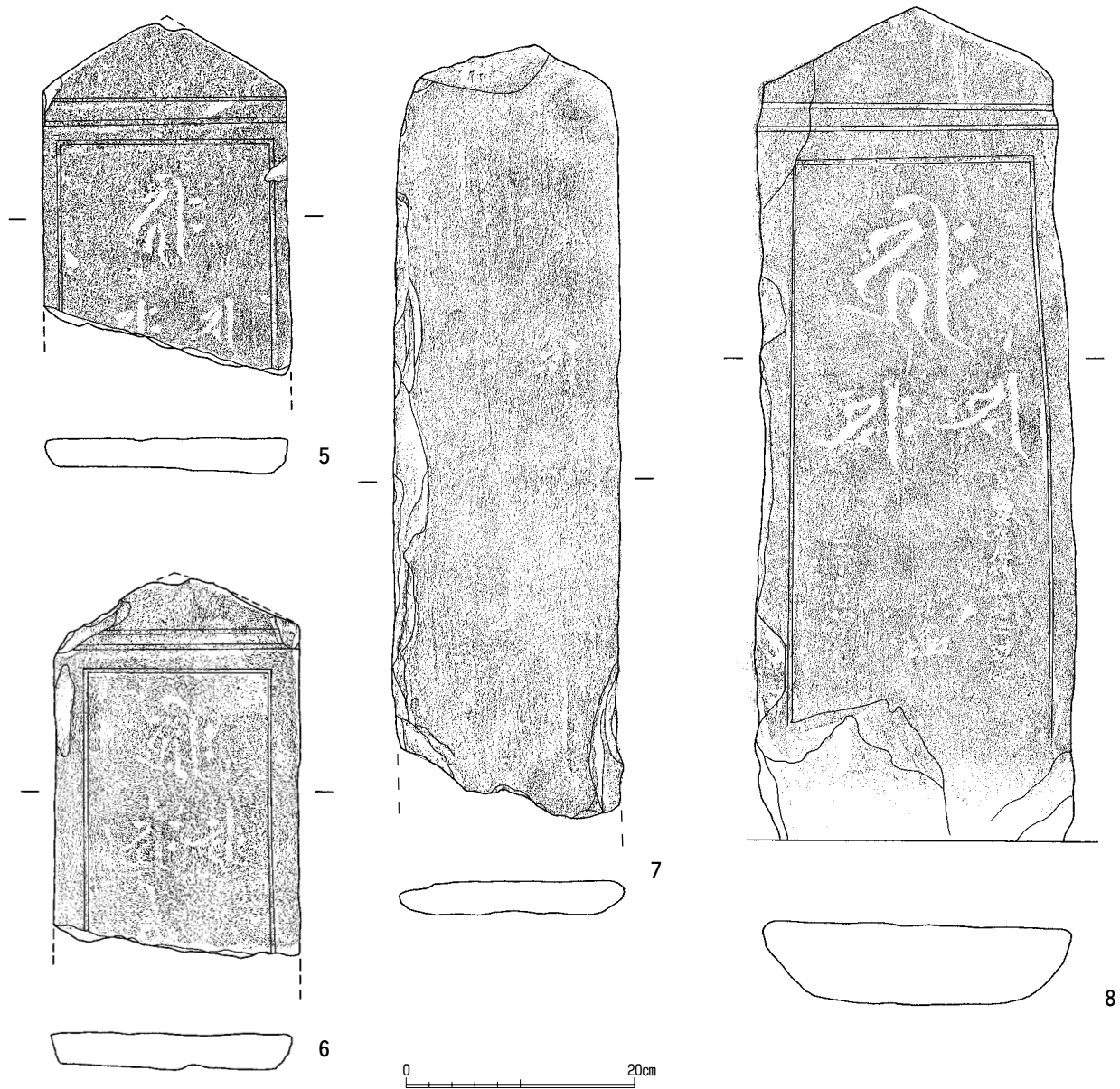


図3 安喜古墳内および長願寺阿弥陀三尊板碑 (1 : 6)

の中に加えられたと考えられる。種子が確認できたものでは1基だけが五大種子であとは阿弥陀三尊種子であった。小形から大形までバラエティに富む。

(6) 安喜家墓地の板碑

安喜古墳から少しのぼった安喜家墓地内で板碑11基が確認できた。種子が確認できたものは6基であるが、すべて阿弥陀三尊種子であった。小形～中形の板碑である。

(7) 新居家墓地の阿弥陀三尊板碑

中辺の新居家墓地に阿弥陀三尊板碑が2基存在するとの記述があったが、1基が現在の谷南の新しい墓地に墓石とともに立てられている。

4) 佐那河内村板碑の特徴

佐那河内村内で確認した板碑は、表1にまとめた。

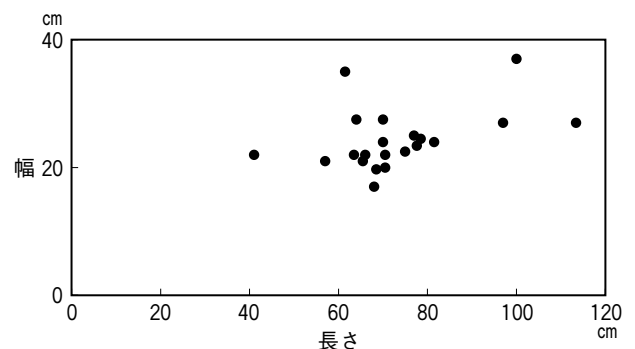


図4 佐那河内村板碑の法量分布

これをもとに完形品の法量をまとめると図4となる。紀年銘板碑が前期から後期まで含んで4基あり、しかも各時期のポイントにあるので目安としたい。大きさも超大形はないが、小形から大形までバラエティに富むが、完形品でみると長さ70cm、幅20cm前後の中形の板碑が多い。

次に、種子についてであるが、確認できた板碑が33基で、阿弥陀三尊板碑が27基、五大種子板碑が4基、五大種子に五輪塔線刻が1基、地蔵画像板碑が1基で

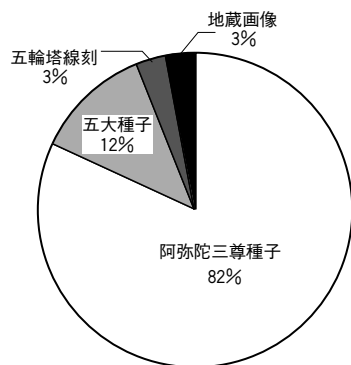


図5 佐那河内村板碑の種子

ある(図5)。五大種子板碑を5基確認したのは佐那河内村の特徴である。これは、隣接する神山町の板碑の特徴の一つでもあり、神山町との強い関連が窺える(図6)。阿弥陀三尊種子が82%というのは徳島県内の平均値73%よりやや高いが、平均的にみられる名号板碑や大日種子・釈迦種子、などがみられない。

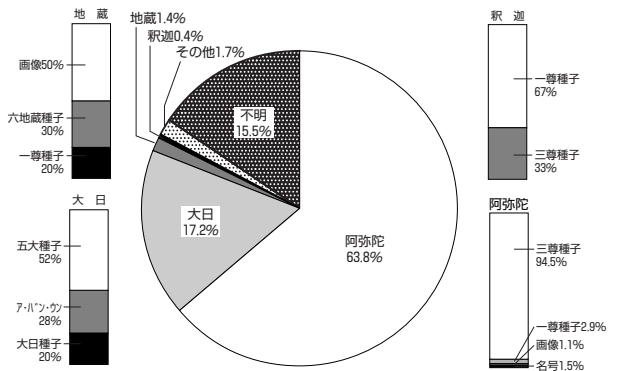


図6 神山町の板碑の種子

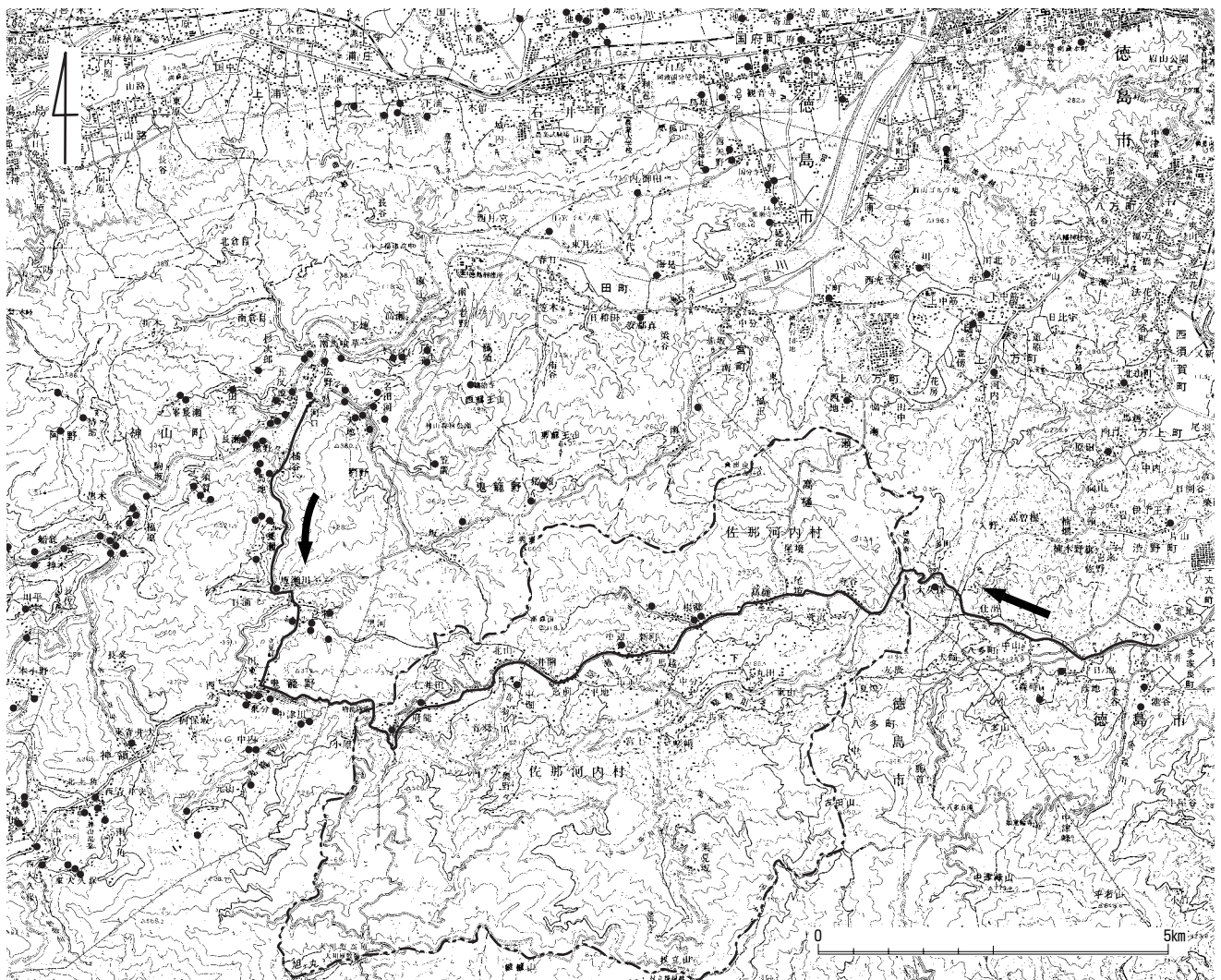


図7 佐那河内村と周辺の板碑分布 (5万分の1「徳島」「阿波富岡」「川島」「雲早山」を基図に作成)



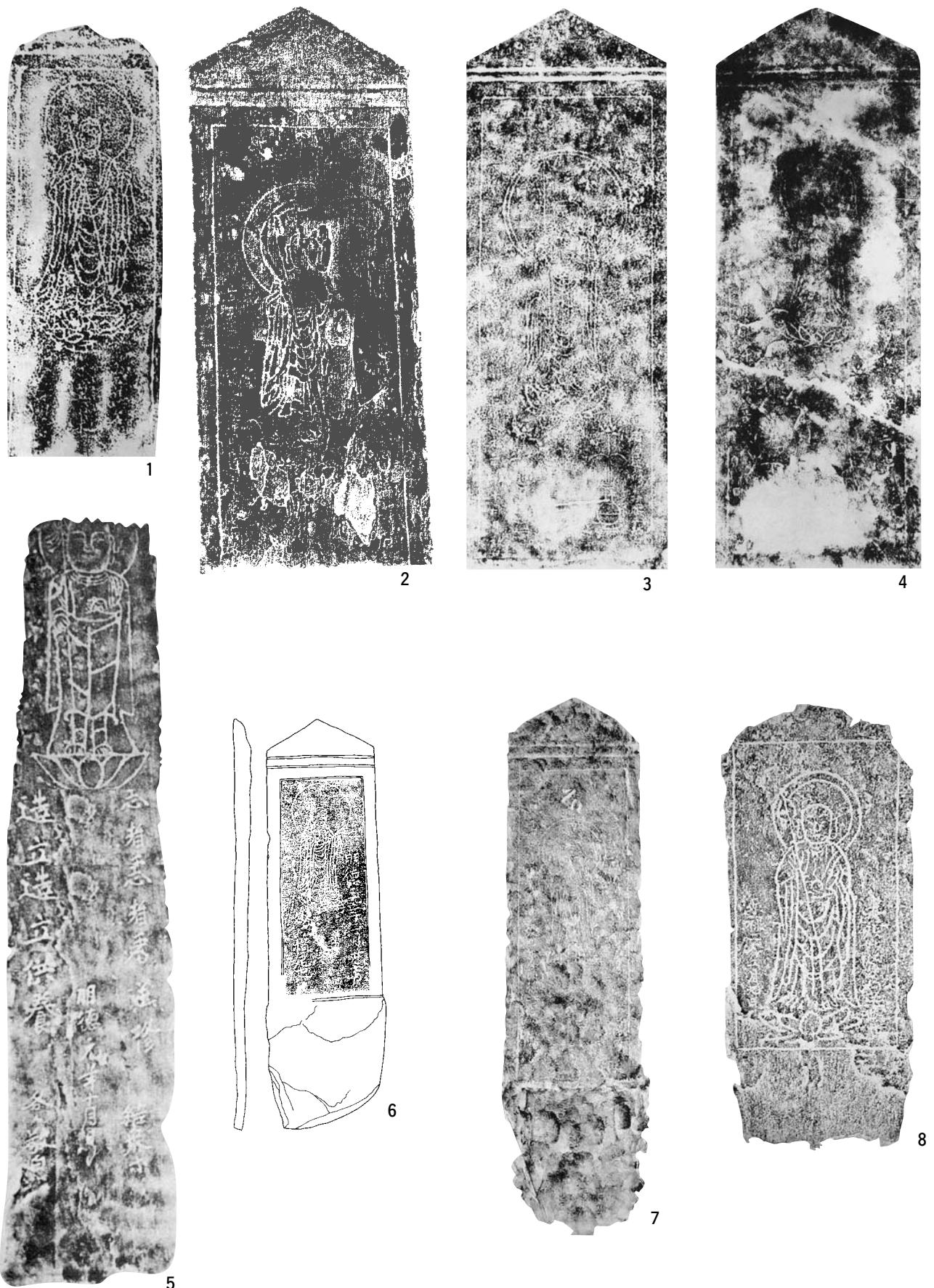


図8 徳島県内のおもな地藏画像板碑 (縮尺不同、番号は表2に同じ)

### 3. 考察

#### 1) 佐那河内村板碑の分布から

佐那河内村周辺には、入田町、上八万町、国府町、神山町鬼籠野と街道沿いに板碑が分布する(図7)。佐那河内村にどこから板碑が入ってきたのかを考えたい。その際に手がかりとなるのが紀年銘板碑である。佐那河内村では1331年の地蔵画像板碑が最も古い板碑で、鎌倉時代末期である。周辺の鎌倉時代の板碑を探すと、方上町神光寺の善光寺式如来像板碑<sup>5)</sup>、国府町で元応二(1320)年が1基、神山町では、阿川に2基(1316・1318)、石井町で1270年を筆頭に13基が確認されている。以上からは、方上町からのルート、あるいは石井町から神山町阿川経由か、国府町経由ルートが有力である。また、神山町鬼籠野と仁井田神社は峠一つ離れているだけである。鬼籠野の板碑は正平年間が最も古く、逆に仁井田神社からの経路も考えられない話ではない。

#### 2) 徳島県内の地蔵画像板碑について

地蔵は、末法思想が流行する平安時代末期から盛んに信仰され、死後の冥土にも救いの手をさしのべてくれるということで、民間信仰として広く親しまれてきた。板碑にも地蔵の画像・種子が刻まれ、徳島県内では板碑全体の中で4%程度見られる<sup>11)</sup>。紀年銘板碑に限ると、現在のところ10基知られる(表2・図8)<sup>12)</sup>。

表2に示したとおり、地蔵画像板碑では、仁井田神社地蔵画像板碑が最も古い例である。また、1390～1393年には、入田町から神山町の鮎喰川流域で3基、鷲敷町から海部町の県南部で3基の計6基が造立されたのが注目される。特に、板碑の造立数その

ものが少ない県南部で短期間に地蔵画像板碑が造立されたことは意義深い。

図8にも示すとおり、佐那河内村の例のように後光をもつ例はない。最も近い意匠は、4の神山町嫁河内例である。また、日和佐町青木家の例のように観音画像と双式板碑として建立される例<sup>13)</sup>も見られる。基本的には蓮華座に立像で描かれている。

### 4. おわりに

今回の調査では、46基の板碑の所在が確認できた。また、村文化財の地蔵画像板碑は、地蔵画像としては徳島県最古の板碑であり、地蔵だけでなく、花瓶などからも優れた意匠であることが判明した。また、五輪塔線刻や五大種子板碑の存在は神山町との関連が窺われた。これをきっかけとして、村内で板碑の保存に前進されんことを期待したい。

最後に、調査にご協力いただいた村教育委員会をはじめ、関係各位に厚くお礼申し上げたい。

#### 注・文献

- 1) 飯田義資『名東郡史』名東郡自治協会 1960年。
- 2) 『佐那河内村史』1967年。
- 3) 武蔵型板碑というA型に該当する形態である。この形態は14世紀半ばまでみられる(上坂悟「板碑にみられる仏具」『板碑の総合研究1総論編』柏書房1983年)。
- 4) このような双式一茎は、13世紀中頃から14世紀中頃までの特徴である(上坂悟「板碑にみられる仏具」)。
- 5) 紀年銘はないが、これと同じ型式の板碑が全国で7例確認されており、その例から13世紀半ばと考えられる(千々和実「板碑に見る中世仏像表現」『仏教芸術89』1972年)。
- 6) 神山町教育委員会『神山の板碑第二集 板碑の紀年とその拓本』1985年。
- 7) 三宅良明『徳島市の石造文化財資料編(二)』徳島市教育委員会 1989年。
- 8) 徳島県教育委員会『徳島県文化財基礎調査報告 第1集 石造文化財』1977年。
- 9) 岡山真知子「日和佐町の板碑の研究」『阿波学会紀要』第43号 1997年。
- 10) 徳島県立博物館より板碑拓本の写真提供をいただいた。
- 11) 岡山真知子「阿波型板碑の考古学的考察」『小林勝美先生還暦記念論集 徳島の考古学と地方文化』2001年。
- 12) 川島町例は壊れており、図示できなかった。
- 13) 岡山真知子「日和佐町の板碑の研究」(前掲)。

表2 徳島県内の紀年銘をもつ地蔵画像板碑

図No	西暦	全長	幅	厚さ	所在地	出典
図2-1	1331	113.0	25.0	5.0	名東郡佐那河内村仁井田	
図8-1	1339	106.0	24.0	5.0	名西郡神山町神領字大埜地	神山 <sup>6)</sup>
図8-2	1390	135.0	45.0	6.0	徳島市入田町堀田 地蔵堂	徳島市 <sup>7)</sup>
図8-3	1390	158.0	44.0	5.0	名西郡神山町広野字馬地 地蔵堂	神山 <sup>6)</sup>
図8-4	1390	174.0	45.0	5.5	名西郡神山町広野字嫁河内墓地	神山 <sup>6)</sup>
図8-5	1390	140.0	38.0	7.0	海部郡海部町大字芝字野江地蔵寺	海部町 <sup>8)</sup>
図8-6	1392	64.0	17.0	2.8	海部郡日和佐町赤松字栗作 青木佐喜太郎宅	日和佐 <sup>9)</sup>
図8-7	1393	100.0	30.0	4.0	那賀郡鷲敷町中山 森家地蔵堂	徳島県 <sup>10)</sup>
	1404				麻植郡川島町学 御迦藍堂	
図8-8	1559	64.0	27.0	4.0	鳴門市大麻町池谷 東林院本殿内	徳島県 <sup>10)</sup>